

日仏共同事業 「一水と文化の展示— 水のころ」



研究第一部 主任研究員 川井 正彦

はじめに

2001年10月にわが国において開催された第7回日仏河川湖沼セミナーにおいて、日本の国土交通省とフランスのエコロジー・持続可能開発省の間で科学技術協力に関わる合意書が取り交わされた。このとき、2003年3月に開催される世界水フォーラムにおいて、「水と文化」をテーマとした共同事業を行い、世界の水問題を「文化」の視点から捉える新たな取り組みについての提案がなされた。

今回開催された「一水と文化の展示— 水のころ」は、この日本とフランス間の合意にもとづくものであり、世界で顕在化している水問題を文化の視点から捉えなおし、広く啓発するとともに、水環境への理解を深化し、良好な水環境を形成するための方向性を見出すことを目的としたものである。

1. 概要

展示は、第3回世界水フォーラムの主会場である京都国際会館に程近い、京都市立植物園の敷地内に仮設テントを設置し開催した。

以下に展示の概要を示す。

【場所】 京都市立植物園 北山門周辺

【期間】 平成15年3月16日～4月6日
(ただし、一般公開は3月17日から実施。)

【主催】 日本側：国土交通省
仏 側：エコロジー・持続可能開発省



写真—1 挨拶をする中馬国土交通副大臣と皇太子・同妃両殿下



写真—2 展示会場内をご視察される皇太子殿下・同妃殿下

なお、一般公開に先立ち、3月16日には、皇太子殿下・同妃殿下の御臨席のもと開会式典が挙行された。

2. 展示内容

展示企画は、フランス側で作成したコンセプトにもとづき、日本側で岩崎敬氏（(株)岩崎敬環境計画事務所）が作成した。

展示会場内には、全体に能舞台を模した木製のステージを設け、これをめぐりながら、水と文化との関わりや世界で顕在化している水問題について、感じ取ってもらうことを狙いとした。

第1ステージ：水の言葉

聖書やコーラン、方丈記の水に関わる表現を原語（ラテン語、アラビア語、日本語）で聞く

第2ステージ：水の詩

水に関わる詩や俳句などを英語、フランス語、日本語で聞く

第3ステージ：ブルーダイヤモンド

水の循環が体からの距離の変化とともに大きくなっていくことをオブジェで展示

第4ステージ：ベストオブH₂O

水に関わる日本、フランスの代表的な映画の一部を映写

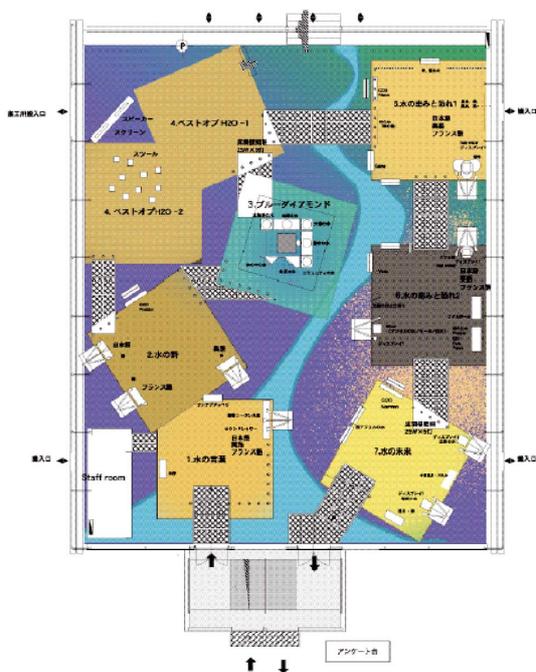


図-1 展示会場内平面図

第5ステージ：水の恵みと恐れ1

水が生物や人間にとって欠かせない大切な恵みであることを展示

第6ステージ：水の恵みと恐れ2

水には恵みの面だけでなく、洪水や水質汚染といった恐れもあることを展示

第7ステージ：水の未来

水の未来をみんなが考えることが重要であることを展示

なお、展示会場の中央には、白砂利で枯山水風に川を表現し、この川沿いに、セーヌ川、日本の川(淀川)、世界の川、アフリカの水環境に関わるパネルやモニターを展示した。

3. 開催状況

展示の一般公開は、3月17日～4月6日までの3



写真-3 展示会場の外観



写真-4 展示会場内
(第1ステージから第3ステージ方向)



写真-5 第3ステージ「ブルーダイヤモンド」

週間にわたって行われた。

この間、当初の予想を超え、延べ44,344名の来場者があり、一日の最大来場者は7,628名にも上った。

来場者を対象に実施したアンケートの結果によると、多くの人が水や水資源の大切さについて、感じ取っていただけたようである。

おわりに

水問題を文化の視点から捉え、広く啓発しようとする今回の展示は、先駆的な取り組みとしては成功したものと考えられる。

しかし、世界には、更に多様な水環境を反映して、様々な文化が育まれており、それらを通じて、国家間、地域間の相互理解を促し、水問題への対応のヒントが見出せれば、これに勝る成果はないと思う。

そういった意味で、“身近な”水に関わる文化の視点から様々な地域の水問題や水環境を紹介し、先人たちが育んできた「水のこころ」を理解する国際的な取り組みは、今後もより枠を広げながら、継続していくことが重要ではないだろうか。